様式

試験研究成果普及情報

部門	資源管理・増養殖	対象	研究
課題名：東京湾におけるトリガイ稚貝の着底時期と成長			
［要約］東京湾でのトリガイ稚貝の出現時期と成長は海域（北部、南部）で異なり、北部では秋に着底した稚貝が翌春に漁獲サイズに成長するが、南部海域では夏季に稚貝が多く出現するものの、個体数の減少が顕著で成長も遅い。このため北部では貧酸素水塊発生前にトリガイ漁場が形成されるが、南部では漁場は形成されにくい。			
ﾌﾘｰｷｰﾜｰﾄﾞ　トリガイ、成長、出現時期、貧酸素水塊、東京湾			
実施機関名　主　査　水産総合研究センター・東京湾漁業研究所 協力機関　内湾底びき網研究会連合会、千葉県漁業協同組合連合会 実施期間　2006 年度～2010 年度			

［目的及び背景］

トリガイは主に浦安～袖ヶ浦地先及び内湾中央で春季に漁獲されており、東京湾の小型底びき網漁業にとって重要な漁獲対象になっている。しかし、これらの漁場で漁獲されるトリガイがいつ着底し、どのくらいの期間で漁獲サイズである殻長 60mm になるのかは不明であった。この情報は、今後資源管理を行う際の基礎情報になるとともに、漁期開始時期を予想する一つの目安となる。そこで、毎月 1 回、東京湾で底びき網による調査を行い、稚貝の出現時期と成長を明らかにした。

［成果内容］

1　東京湾北部（浦安～袖ヶ浦地先及び内湾中央）での稚貝出現時期と成長

・夏～秋は貧酸素水塊が分布するため、トリガイの生息は見られなかった。

・11～12 月に、貧酸素水塊解消後に着底したと推定される殻長 10～20mm 程度の稚貝が出現した（図 1)。

・この稚貝が約 5 か月後（4～5 月）には殻長 60mm に成長し漁獲対象になるが、その後、貧酸素水塊の発生により死亡すると考えられた。

2　東京湾南部（盤洲～富津地先及び中の瀬）での稚貝出現時期と成長

・夏に稚貝が多く出現するが、ヒトデ類の食害により減少すると考えられた。

・夏～秋は成長がほとんど見られず、ヒトデ類の食害による影響の他に低酸素化による成長阻害が考えられた。

・冬～春には成長が見られるものの北部より遅かった（図 1)。

3　トリガイ漁場の形成

・東京湾の北部と南部で稚貝の出現時期と成長は大きく異なり、北部は成長が良く貧酸素水塊発生前に漁獲対象サイズに達し漁場が形成されていた。

・南部は、稚貝期の減少が顕著で成長も遅いため、漁場は形成されにくいと考えられた。

［留意事項］

［普及対象地域］

浦安市～富津市までの小型底びき網漁業者

［行政上の措置］

［普及状況］

［成果の概要］

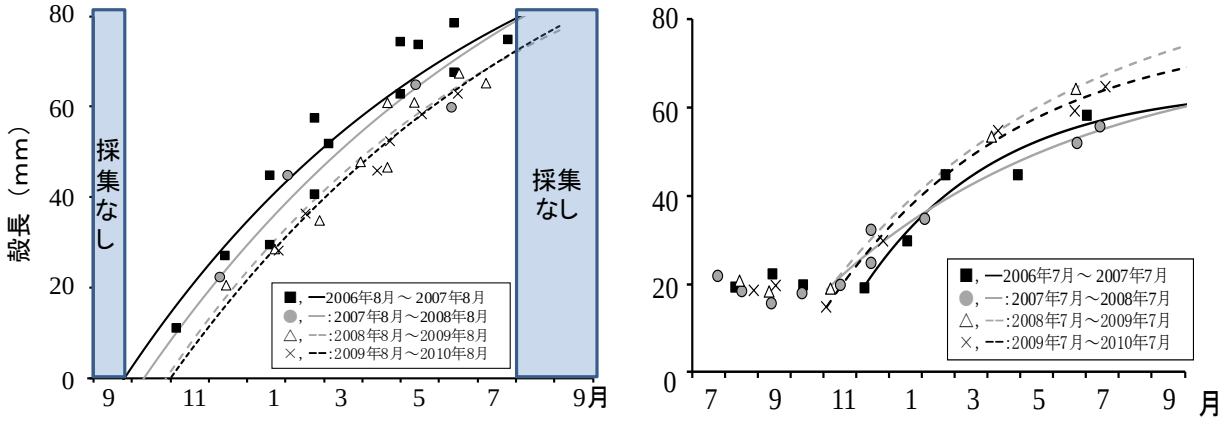

図１　稚貝の殻長と成長曲線（左：北部、右：南部）

［発表及び関連文献］

資源回復計画作成推進事業(2)トリガイ・アカガイ調査、平成 18 年度業務年報、2007 年

東京湾内湾におけるトリガイ漁場の形成と貧酸素水塊の関係、平成 20 年度日本水産学会春季大会講演要旨集、2008 年

トリガイの漁場形成に及ぼす貧酸素水塊の影響、内湾底びき報告会資料、2008 年

東京湾におけるトリガイ稚貝の着底時期と成長、日本水産学会誌、第 79 巻第 6 号、2013 年

東京湾のトリガイ資源の現状、平成 25 年度東京湾研究会、2014 年

［その他］